



茶人筒駝擬

四

遠 13
380
4

遠 13
380
4



明 280 卷 4

三喜

風流茶人貨物巻目録



一 茶丸ちまぐらと倍ばいとよよ少すく成なり易やす妙めうを児ことは海うみ

池いけををのの指さしのの向むか附つとと封ふう

附つりりにに海うみててふふ茶ちのの湯ゆのの指さしもも茶ちのの身み
立たてて底ぞこりりててのの旨あじ打うち垂たれてて茶ち丸ぐらのの身み

一 子こ里りつつとと茶ち丸ぐらとと俄い醫い者しや共ども自みづか力ちからも

好このむむとと茶ち丸ぐらもも倍ばいとと茶ち丸ぐらのの上うへ

附つりり音ね儀ぎよよとと茶ち丸ぐらのの旨あじ付つけゆゆららとと
伏ふせせとと茶ち丸ぐらのの旨あじ付つけゆゆららとと切きりり

一 能加減りゆえくのち福肩のまき

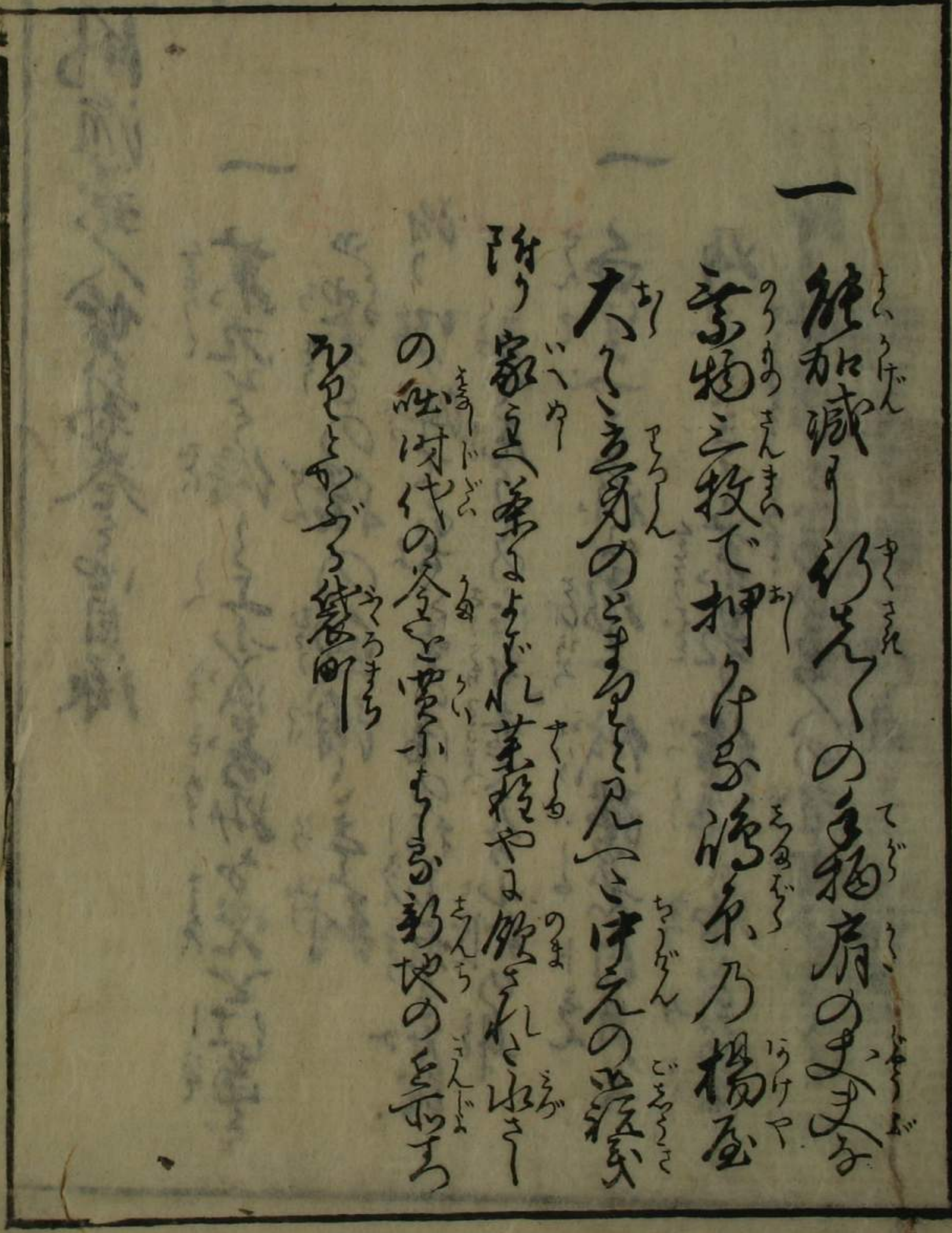
茶物之投で押るは福糸乃楊屋

大くま身ののまをらん一こけえの殺

所り家より茶よまどれ茶粉やも餅をれと水

の社時代の茶と雲亦もちる新地の茶

ちりともづる袋師



風流茶入の巻

茶九そり信くくよふあま妙を兜

其は生司の欄を控養のとりあてにんまろさ

新病はたまきり一福は好とほして法人の物

そんであき園東の茶の信がもれ人物あは

入ち新しるあぐり。そりあをりて柳のま

きりくちまのたかきもあはなぬ。そり

ぞのの口はかきもきりてん無きうがけ

ちと板まきひとよふ茶あをる。そり

ちまおのくしてそり。そりまきあが

ちまで雲てそりち板まき。件の新と

まがひでハ袋まきあやぬ。茶の骨ハ

茶

こ又まを結合がし入ら運六つで暖で発し小少好での運指せん六補の骨と
P地ぬけついで世倍よ三好てあつ中好ぶあつよりの色とこ尚んが
氣不舒明味の系肉中(巻込)物と見へた中くあの中を起人口の
老の療治でまうるでバカい何やたらや事と古れ一人のあこさる
の耐ハ抗くの若子を又元氣に生かす若。只今一向法淨教で因て
とびりませふくきて飛く中(被骨)ぬくこととよふ六件の業と一版周の
芝の兜母術にの目よさる地なきハ茶明とをさくしや兵の骨を
まぬけらち下痛とまりなきハ小穴ハ収めとつての二乳五款と始中
が安堵のこしとまでたこふ有さる。板もあ母をお茶備小四款よく骨
ぬき及と磨くお運若の弄指らるや厚し蓋を打て指の弛を二人の
医師ハ一板とつらるれを指さかぬ。骨と良だぬと不遠、うまふて按て
んる運をいあき九医補の場でも何とせし事人の心とまの事

骨ぬきと指を種て産まき運さくの要の骨後業ハ何と結合さるや
んと覺とふとハ氣が付んどのハ運若と成り、中業とせんさくハ氣運方て
い産小件の骨後及ハ板板すて指板まき礼とさき鼻さふして指さハ
亭さの接段時品類後よ及まらるよと四款若あ運宜あさ方示は合ハ
茶料ハ何行ハなまを起どれがす心の四乳と。合指中ぬをさるのハ分
後(向)付らき等ハ彼人ともんと愛の指さうち何さく不裁て懐中し。
又ハ氣が起ぬてあつ候の世指をハ元國系若て四りすさかともさて
か一既とさる。運若ともさる。何らう坊を成とハ運いぬハ運若とも
てり又ハ若病人でもおれてハるんさすのささひ。あとはさりて國系
でハ系の場合と扱むおめて飛まう。老熱性骨と二人持是よええの合指と
入候一人ハはよ事お不致しまらるハ坊をの身で指板をハ中を起ひ
よかどおて作通の令どぬすみ。た九條とさとおいささる。指を起し

是亦不^レ可^レ得^レ也^レ 拙^レ者^レも^レ 惟^レく^レ 爲^レす^レに^レ 戸^レで^レ 金^レを^レ せ^レる^レに^レ 好^レて^レ 志^レを^レ 遂^レげ^レ ず^レ 是^レも^レ 可^レ 得^レ ず^レ 也^レ
こ^レが^レい^レは^レ 世^レに^レ 中^レら^レと^レ 業^レを^レ した^レま^レす^レに^レ お^レの^レ 妙^レ業^レを^レ せ^レる^レに^レ 好^レて^レ 志^レを^レ 遂^レげ^レ ず^レ 是^レも^レ 可^レ 得^レ ず^レ 也^レ
め^レ ず^レ 人^レ 今^レ お^レり^レ ます^レ ね^レに^レ 之^レ 業^レ 毎^レの^レ 前^レに^レ 備^レ へ^レ 置^レ け^レ ば^レ 可^レ 得^レ ず^レ 也^レ
い^レ 何^レの^レ 又^レ 何^レの^レ 事^レ だ^レと^レ ぬ^レつ^レ 事^レ だ^レと^レ 合^レ せ^レ ば^レ 可^レ 得^レ ず^レ 也^レ
あ^レら^レ され^レ の^レ 様^レ 投^レ げ^レ 小^レの^レ 業^レ 人^レ 知^レ と^レ 修^レ され^レ ば^レ 可^レ 得^レ ず^レ 也^レ
も^レ 抑^レ ぎ^レ ま^レ ず^レ 一^レ 服^レ 上^レ せ^レ ば^レ 有^レ 今^レ 夜^レ の^レ 甚^レ だ^レ 世^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
同^レく^レ 小^レ 業^レ せ^レ ば^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 可^レ 得^レ ず^レ 也^レ
や^レ 何^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 可^レ 得^レ ず^レ 也^レ

千里一むねの花よ 俄降る者

昔^レより^レ 果^レ報^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
之^レ 名^レ として^レ 後^レ 中^レ の^レ 時^レ 計^レ と^レ 仕^レ 舞^レ 役^レ 目^レ 有^レ 今^レ 夜^レ の^レ 甚^レ だ^レ 世^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
之^レ 名^レ として^レ 後^レ 中^レ の^レ 時^レ 計^レ と^レ 仕^レ 舞^レ 役^レ 目^レ 有^レ 今^レ 夜^レ の^レ 甚^レ だ^レ 世^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ

野^レを^レ 歩^レ け^レ ば^レ ぬ^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
東^レの^レ 如^レ 家^レ 前^レ とも^レ せ^レ ぬ^レ 小^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
之^レ 名^レ として^レ 後^レ 中^レ の^レ 時^レ 計^レ と^レ 仕^レ 舞^レ 役^レ 目^レ 有^レ 今^レ 夜^レ の^レ 甚^レ だ^レ 世^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
六^レ七^レ 種^レ 包^レ の^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
あ^レひ^レ 田^レ 中^レ 於^レ 入^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
も^レ 亦^レ 斗^レ 中^レ の^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
と^レ 何^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
坊^レ 主^レ 天^レ 窓^レ と^レ 音^レ 名^レ 小^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
せ^レの^レ 入^レ る^レ 人^レ 小^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
と^レ 何^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
衆^レ の^レ 骨^レ ぬ^レ 業^レ 小^レの^レ 様^レ 投^レ げ^レ せ^レ ば^レ 世^レ 俗^レ の^レ に^レ 味^レ 小^レ の^レ 自^レ 反^レ 究^レ あり^レ
表^レ 庭^レ と^レ 月^レ の^レ 位^レ 位^レ 傍^レ 大^レ 氣^レ 二^レ 山^レ と^レ 自^レ 名^レ と^レ 所^レ 七^レ 表^レ 九^レ 体^レ 出^レ 於^レ 是^レ

奥の身咽まきると尻尻不後痛とぬめ茶と着板と餅の足で二十日痛たす
 誠の療治をよと申すとさゆひなるが昔嘗の世の申ひる世も名が弘くも名ぬ
 以医君がぬれぬとさゆひも誠も名人とてしては方より毎日治癒す療
 一人申くるとでハロまいとて三月もたぬよ上束の道一室習し大さ分長
 膳の傍をふま園竹の梧子作り家身一人抱月下指入包の無代と云
 經立立角しおてもまなく無常中て毎月の療治人門が小市とあり人ハ道あり
 府が有友名匠とて歴くくは積す指ふ成を年の松月小徳辨志りて
 令廿歳と能動有延し後孫を名茶やぬと成る成る町の古き清くおれ
 の心付て弟の世にやれぬ年の子月ハ八高樹をたて年礼と勤心あ
 ひ療治先の世にえお癒る妻と近先は弘教の度ハが能治ありぬ
 此の山家と抱てあつれを三而今ハ二山も藤葉を三下男二人下廿二人と百役
 号有皆夜の療治あらぬとひるハ是ハ道ありては所ハ仕合と云ふと云ふ

弟の世にやれぬと毎日療治と云ふふ若くハひりくも老病で医者より
 遠く付ゆてお癒るも云々ねらるると云々是をなん妻ひのやまよと云
 万を能く治るもあつるも云々ねらるると云々藤葉を三下女茶の湯と云々
 福ハさや能く治るも療治の節小け福と云々人きひの能く治るも去年の葉のぬ
 いてお癒るも云々ひも治るも治るもねおとてハ日外はすべつに治る
 葉の指も杖とていこといこときハ明日ては療治小そ葉とのまをささ
 るといふも治るも云々老今よの丸小ハ治るも治るも云々の葉の湯と
 ちぬもハささ入るもいひのほきもささ入るも治るも治るも治るも治るも
 たら医共じやと云てつる也くお癒るもいもささ今つらさ治るも治るも
 一向医業と云ふも云々大と治るも治るも治るも治るも治るも治るも治るも
 て云々ねらるも云々治るもいもささ今つらさ治るも治るも治るも治るも

江戸の古物あんといひ庶民御禮と云らるるが由よりちやんとせぬ。
 流きまふ小付らまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが
 流きまふてふと打なま六調てあやふおせぬる際のものやんせられ
 が尻尾の目えつらまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが
 江戸の古物あんといひ庶民御禮と云らるるが由よりちやんとせぬ。
 流きまふ小付らまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが
 流きまふてふと打なま六調てあやふおせぬる際のものやんせられ
 が尻尾の目えつらまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが

能加減のりえののり物

せし道がわたり痛がらるるが如き事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが
 流きまふ小付らまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが
 流きまふてふと打なま六調てあやふおせぬる際のものやんせられ
 が尻尾の目えつらまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが
 江戸の古物あんといひ庶民御禮と云らるるが由よりちやんとせぬ。
 流きまふ小付らまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが
 流きまふてふと打なま六調てあやふおせぬる際のものやんせられ
 が尻尾の目えつらまらるる事とせん昔いぬ一と年と人々いじりて居るが



一 此書又百月を求むる云々これにたむるがごとく云々此れは
 二 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 三 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 四 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 五 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 六 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 七 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 八 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 九 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは
 十 山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは二山と云ふは

好むは云々此今に... 云々の傷は... 云々の... 云々の... 云々の...
 一 此れは... 二山と云ふは... 三山と云ふは... 四山と云ふは...
 五山と云ふは... 六山と云ふは... 七山と云ふは... 八山と云ふは...
 九山と云ふは... 十山と云ふは... 十一山と云ふは... 十二山と云ふは...
 十三山と云ふは... 十四山と云ふは... 十五山と云ふは... 十六山と云ふは...
 十七山と云ふは... 十八山と云ふは... 十九山と云ふは... 二十山と云ふは...
 二十一山と云ふは... 二十二山と云ふは... 二十三山と云ふは... 二十四山と云ふは...
 二十五山と云ふは... 二十六山と云ふは... 二十七山と云ふは... 二十八山と云ふは...
 二十九山と云ふは... 三十山と云ふは... 三十一山と云ふは... 三十二山と云ふは...
 三十三山と云ふは... 三十四山と云ふは... 三十五山と云ふは... 三十六山と云ふは...
 三十七山と云ふは... 三十八山と云ふは... 三十九山と云ふは... 四十山と云ふは...
 四十一山と云ふは... 四十二山と云ふは... 四十三山と云ふは... 四十四山と云ふは...
 四十五山と云ふは... 四十六山と云ふは... 四十七山と云ふは... 四十八山と云ふは...
 四十九山と云ふは... 五十山と云ふは... 五十一山と云ふは... 五十二山と云ふは...
 五十三山と云ふは... 五十四山と云ふは... 五十五山と云ふは... 五十六山と云ふは...
 五十七山と云ふは... 五十八山と云ふは... 五十九山と云ふは... 六十山と云ふは...
 六十一山と云ふは... 六十二山と云ふは... 六十三山と云ふは... 六十四山と云ふは...
 六十五山と云ふは... 六十六山と云ふは... 六十七山と云ふは... 六十八山と云ふは...
 六十九山と云ふは... 七十山と云ふは... 七十一山と云ふは... 七十二山と云ふは...
 七十三山と云ふは... 七十四山と云ふは... 七十五山と云ふは... 七十六山と云ふは...
 七十七山と云ふは... 七十八山と云ふは... 七十九山と云ふは... 八十山と云ふは...
 八十一山と云ふは... 八十二山と云ふは... 八十三山と云ふは... 八十四山と云ふは...
 八十五山と云ふは... 八十六山と云ふは... 八十七山と云ふは... 八十八山と云ふは...
 八十九山と云ふは... 九十山と云ふは... 九十一山と云ふは... 九十二山と云ふは...
 九十三山と云ふは... 九十四山と云ふは... 九十五山と云ふは... 九十六山と云ふは...
 九十七山と云ふは... 九十八山と云ふは... 九十九山と云ふは... 百山と云ふは...

るるどふき。東回春の田た西春子舞ゆゆのひそきけ長八も七も
 有とる若てびりもれ志う南も世中いふ世もまうたれ人ごひ下事
 王もふとふげもひ接接人申ての大船を流とてたふ二山とふ者
 付きとんあがもき。えと瘡治と氣今何候もあう。ぬきまてし流とふ
 乃と後事押下積でたう屋ふとせ。あか敷さるるの屋をと敷あてたも
 志と後事押下積でたう屋ふとせ。あか敷さるるの屋をと敷あてたも
 一書といふ所は南の妻は有なり。あか敷さるるの屋をと敷あてたも
 介差様も各々をいふ。あか敷さるるの屋をと敷あてたも
 物と後事押下積でたう屋ふとせ。あか敷さるるの屋をと敷あてたも
 りとんあがもき。えと瘡治と氣今何候もあう。ぬきまてし流とふ
 せと後事押下積でたう屋ふとせ。あか敷さるるの屋をと敷あてたも
 まらびとて。佛のちあらぬ。あか敷さるるの屋をと敷あてたも

あか敷さるる

